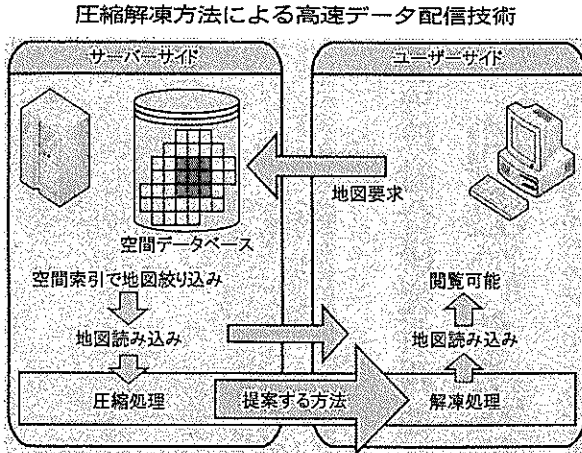


オオバ

# 地図の高速描画実現

## 汎用性高い上下水道管理システム

オオバは、ウェブ対応型の APT4-WS Ver.2 上下水道管理システム「CM・O」を開発、今月から地方自治体に営業活動を開始する。サーバーから呼び出し、数分から十数分かかるケースもあり、使い勝手の悪さが最大のネックとなっていた。



地図に下水道や上下水道の配管情報などを重ね合わせたウェブGIS(地理情報システム)は、従来の1分弱から1秒以内に短縮するなど、高速描画を実現した。

自治体に営業活動を開始する。サーバーから呼び出し、数分から十数分かかるケースもあり、使い勝手の悪さが最大のネックとなっていた。新商品は、狭い範囲の地図の場合、サーバー側でデータを圧縮して送信、パソコン側はこれを解凍して表示する圧縮解凍方法の採用によって、従来よりも4倍の早さを実現した。

5000分の1の地図は情報取得応答時間が47・87秒を0・65秒に、再描画応答時間は0・52秒を0・28秒にそれぞれ短縮した。情報取得、再描画とも応答時間は、地図の縮尺に関係なくほぼ一定のため、広範囲になればなるほど時間短縮の効果が大きくなる。

新商品は、政令5都市のほか二十数市に納入しているCMAPT3をバージョンアップした。ウインドウズXP、ビスタ、7に対応しているため汎用性が高い。システムをインストールしたサーバーに接続できるパソコンの数は制限がないが、情報のセキュリティを守るため、使用するパソコンごとに管理者権限、更新権限、閲覧制限といったきめ細かい設定が可能だ。

価格は300万円に設定、年間30セットの販売を目標としている。

広範囲の地図は、地図を画像にして送信するリアルタイムラスタライズ配信技術アルゴリズムを使うことで、2万